

行政評価アドバイザー会議を終えて ～行政評価アドバイザーによるコメント～

平成26年9月4日(木)

五味アドバイザー

2年間、アドバイザー会議に参加して、職員のみなさんの大変さがよくわかりました。

事業の内容を説明していただいた中で、ひとつの事業であっても、いろいろな関係部署がその事業に携わっていたりして、それぞれに予算がつけられている場合もあるので、それを総合して考えるということが非常に難しいということを感じました。例えば、外部評価の対象とならない部署については、同じ事業であってもその説明を受けることができませんし、どのような形で複数の部署の職員が事業を行っているのかということがわからず、少なからず歯がゆく感じました。もしできるならば、そういった事業を取り上げたときに、横断的な説明をしていただけるようなシステムがあると大変わかりやすいと感じました。

土橋アドバイザー

個人的な感想ということで聞いていただければと思います。

事業計画を作成する際、補助金があるから事業をする、ということだけでなく、対象者のニーズを的確に捉えているかどうか、机上での一方的な思い込みや自己満足ということがないかどうか、利用しやすい事業になっているかどうかということと、事業の進捗状況を常に把握して、その都度、費用対効果を検証して、成果に対するこだわりをもっと持っていただければと思います。

一般的に、計画は非常にすばらしいものができるが、それを実現するための戦略を重視していただければ、もっと成果につながっていくのではないかと思います。

類似事業が他部署にもあるのかどうか、検証し調整していく必要があるのではないかと思います。

既存制度を続けることを前提にしている傾向が見られるが、時代に即していない事業やあまりにも利用が少ない事業、何となく続いている事業がもしあれば、廃止を決断する勇気を持っていただければと思います。

広報、イベント、啓発事業などは、費用対効果が捉えにくい側面があるので、絶えず検証が必要ではないかと思います。

補助金については、関係する業界を一律に守るという発想ではなくて、業界の自助努力を促してインセンティブやペナルティ等メリハリをつけた事業となるようにしていただければと思います。

県職員が自ら現場へ足を運んで、実態を見るということにも力を入れていただきたいと思います。自主点検シートの所要時間を見ても、現地調査の項目はほとんど見られないという状況なので、やはり事業を行う上では、実態を調査することは必要ではないかと思います。

事業の数値目標は、単に前年度実績を基に設定しているものが多いが、挑戦的な目標を作っていて、それを達成するためにはどうするのかというところから、新たな工夫や努力が出てくるとと思います。

日高アドバイザー

5年ほど公開型の外部評価をこのスタイルで行いましたが、外部評価というのは果たして必要なのかどうかという関心を持っていました。本来、外部評価は議会や監査が充実して代替していくことが望ましいし、そうあるべきだと思いますが、しかし、現状では、なかなかそのようにいかないということであれば、こうした外部評価というものに一体、どのような意味合いがあるのか、ということを考えながらアドバイザー会議に参加させていただきました。

その結果、当面の結論として、外部評価は内部評価に対抗する一種の競合的な評価という意味で、職員が行う内部評価の客観性や透明性を向上させる手段として意義があるのではないかという結論を持っています。

具体的にいうと、事業内容は、やりとりをしてみないと分からないところが多い面があります。そういう意味では、外部評価の視点から担当課とやりとりをする中で、事業内容を見える形にしていくという効果が期待できるし、現にそういう面があるのではないかと思います。

また、アドバイザーが、個々にそれぞれの観点から様々な改善点等を指摘するという意味では、内部評価ではなかなか気づかなかつたり、あるいは気づいてもそれを組織的に改善につなげることができなかつたりといったものの改善促進に、一定の役割があるのではないかと思います。中でも、廃止を含めた抜本的な見直しは、様々な事情から県庁の中で自ら発案していくというのが難しい領域です。そういうことを外部評価の中で指摘して、そういう検討をしていくためのきっかけを提供するといったことから、外部評価の意味があるのではないかと考えています。

同時に、本県の行政評価アドバイザー制度のよい点だと思いますが、意見集約などをせず、それぞれのアドバイザーがそれぞれの立場から判定と意見を言うことで、ひとつの事業についても、いろいろな観点からの意見が伺えるし、たまたま結果が「要改善」とか「廃止」とか「現行どおり」となったとしても、その理由自体が決してひとつではなく、多様な視点からの意見が伺えるということで、ある意味、県民に対して、事業を通して政策的な論議をするための論点を提示するという機能があるのではないかと感じました。

そういう意味で、外部評価というものには一定の意義があるし、実際問題として、外部評価の結果と県での事業の見直しや予算編成がある程度連動していくということにおいても、他県以上に成果を上げているのではないかと考えています。

いずれにしても、そういうものに参加させていただいたことに感謝申し上げますと同時に、アドバイザーのみなさんは大変ご苦勞が多かったと思いますが、2年間、本当にありがとうございました。また、知事政策局長をはじめ行政改革推進課長、そしてスタッフのみなさんの全面的なバックアップがなければ、私たちもこれを維持することができなかつたと思います。心から感謝を申し上げて、コメントにかえさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。